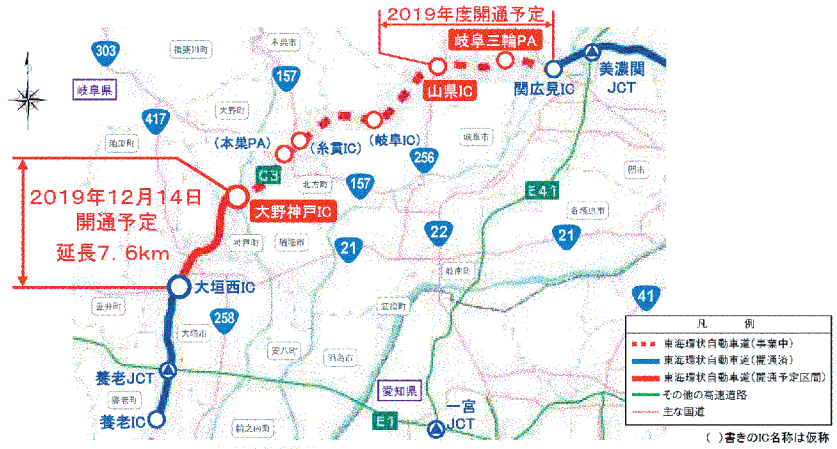
令和元年12月14日（土）開通予定

東海環状自動車道 大野神戸IC～大垣西IC

～地域・観光の活性化に期待～



国土交通省中部地方整備局とNEXCO中日本が整備を進めてきた東海環状自動車道（大野神戸IC～大垣西IC）が、令和元年12月14日（土）に開通する。

東海環状自動車道は、愛知・岐阜・三重3県の各都市を環状に連結し、東名高速道路・名神高速道路・新東名高速道路・新名神高速道路などと一体となって、広域的なネットワークを形成する延長約153㌔の高規格幹線道路である。

今回の開通により、開通延長が100・4㌔（約7割）となり、100㌔を超えることとなる。

また、仮称となっていたICとPAは、大野神戸（おおのごうど）IC、山県（やまがた）IC、岐阜三輪（ぎふみわ）PAに決定した。

【開通日】

令和元年12月14日（土）

【開通区間】

東海環状自動車道（大野神戸IC～大垣西IC）／7・6㌔

【開通による整備効果】

◇企業立地の促進

本巣市にある屋井工業団地では、東海環状自動車道西回りの開通を見据え、企業立地が促進し、開通見通し公表後に分譲地が完売した。

本巣市では、製造業従業員数や有効求人倍率が増加傾向にあり、今回の開通により、更なる企業立地による地域活性化が期待される。

◇沿線市町の観光活性化

大野町にある道の駅「パレットピアおおの」は、東海環状道大野神戸ICの設置を見据えて整備され、開駅後1年で約50万人が来場した。

今回の開通によるアクセス性の向上により、更なる観光客の増加と観光活性化が期待される。

◇中京圏の発展

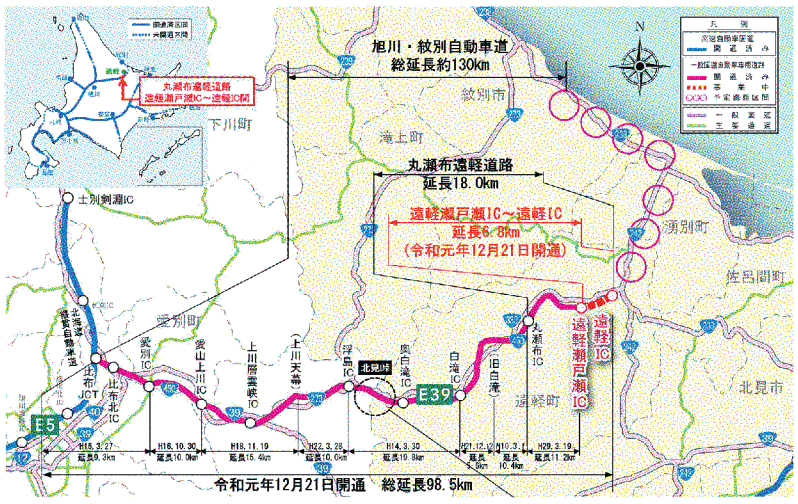
東海環状自動車道の開通が民間投資を喚起し、全線着工（2000年）後、工業団地が26箇所完成し、従業者数、出荷額等が全国平均を上回る伸びである。

大野神戸IC周辺では、開通を見越し工業団地の整備が進展している。

令和元年12月21日（土）開通予定

旭川・紋別自動車道　丸瀬布遠軽道路 遠軽瀬戸瀬IC～遠軽IC

～オホーツク地域の産業の発展・観光活性化・救急搬送に寄与～



国土交通省北海道開発局が整備を進めてきた旭川・紋別自動車道　丸瀬布遠軽道路（遠軽瀬戸瀬IC～遠軽IC）が、令和元年12月21日（土）に開通する。

旭川・紋別自動車道は、比布町を起点とし、遠軽町を経由して紋別市に至る延長約130㌔の高規格幹線道路であり、北海道縦貫自動車道と一体となり、主要都市である札幌市と旭川市とオホーツク地域を結ぶ高速ネットワークを形成している。

今回の開通により、総延長約98・5㌔の高速ネットワークが整備される。

【開通日】

令和元年12月21日（土）

【開通区間】

東海環状自動車道旭川・紋別自動車道　丸瀬布遠軽道路（遠軽瀬戸瀬IC～遠軽IC）／6・8㌔

【開通による整備効果】

◇オホーツクから出荷される水産品の輸送効率化

旭川・紋別自動車道は、全国漁獲量の約4割を占めるオホーツク産ホタテの主要な輸送ルートとして活用されている。

旭川・紋別自動車道の延伸とともに、空港からの活ホタテ、港湾からの冷凍ホタテの中国等への輸出が増加しており、オホーツクのホタテ産業の振興に貢献する。

◇道央圏とのアクセス向上により外国人観光の活性化

道央圏とオホーツク圏を結ぶ広域観光の周遊性向上により、オホーツク圏のレンタカー利用が増加するとともに、外国人観光客も増加している。

オホーツク圏を代表する冬期の流氷観光や、外国人観光客のオフピークとなる春期の花観光が活性化される。

◇高次医療施設への救急搬送の速達性・確実性の向上

旭川・紋別自動車道沿線の白滝・丸瀬布地区では、救急搬送の約8割が遠軽厚生病院への搬送となっている。

また、最寄りの高次医療施設が北見市にあるものの、より重篤な症状の場合は旭川市まで搬送せざるを得ず、救急搬送車両による陸上搬送を強いられるケースも多い状況となっている。

今回の開通により、遠軽町内への1次搬送および3次医療施設（旭川市内病院）への搬送の速達性・確実性が向上する。

新東名高速道路 伊勢原JCT～伊勢原大山IC間 開通見通し

NEXCO中日本が建設を進めている新東名高速道路の伊勢原JCT～伊勢原大山IC間は2019年内の開通を目指していたが、台風19号の降雨の影響により建設資材の調達に支障が生じ、工程を精査したところ、2020年3月までに開通する見通しとなった。

なお、具体的な開通時期については改めて発表するとしている。

第1次ナショナルサイクルルート指定

国土交通省は、11月7日に日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートについて、国内外にPRを図るため、第1次ナショナルサイクルルートの指定を行った。

あわせて、ナショナルサイクルルートのブランディングを図るため公募を行った、ルート上やポータルサイト等で使用するロゴマークを決定した。

【ナショナルサイクルルートロゴマーク】

◇コンセプト

「和」をイメージ。和やかに心地よいサイクリング、その土地で出会うヒトやモノやコトとのつながり。（「輪」と「和」）

◇作成者

ロゴは273点の応募の中から岡山県の落合翔平さんの作品が選ばれた。

※ロゴマークのダウンロード先や使用方法については別途決定し、国土交通省自転車活用推進本部事務局のHPに掲示する。

NATIONAL CYCLE ROUTE

「道路標識設置基準」の改正

国土交通省は、9月6日に開催した社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会、および、10月10日に開催した同分科会道路技術小委員会での審議を踏まえ、「道路標識設置基準」（平成27年3月、都市局長・道路局長）について、次のとおり、改正をした。

【改正の概要】

▽高速道路ナンバリングなど、前回の設置基準改正（H27・3）以降の標識令（※）、道路構造令の改正内容に関連する取り扱いを追加する。

※道路標識、区画線及び道路標示に関する命令（昭和35年総理府・建設省令第3号）

▽東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた標識改善の取組（取組方針の作成 等）を全国に展開する。

▽公共交通の乗換え支援や観光案内のため、交通結節点（駅、バス等）や観光地へ地図標識の設置対象範囲を拡大する。

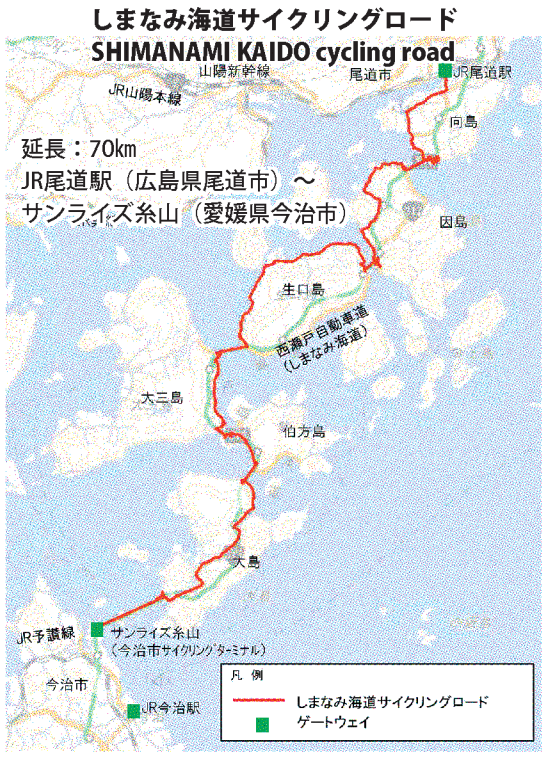
▽高速道路からの一時退出の取組に対応し、有料区間の高速道路本線上からも「道の駅」を案内する。

【スケジュール】

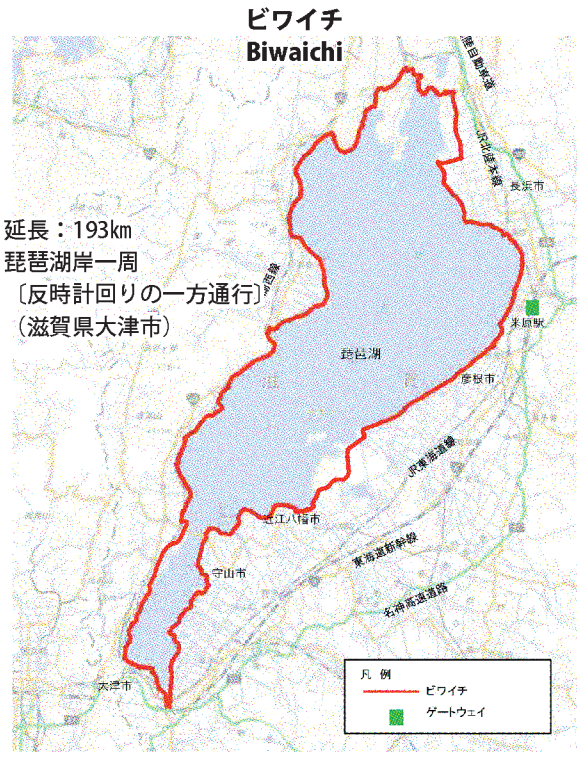
令和元年10月21日都市局長、道路局長より地方整備局長等に通知し、令和2年4月1日からの設計、計画に適用する。

一般道上の案内標識における高速道路の表示方法の変更

しまなみ海道サイクリングロード SHIMANAMI KAIDO cycling road



ビワイチ Biwaichi



つくば霞ヶ浦りんりんロード Tsukuba-Kasumigaura ring-ring road